



発言

日本人・外国人

飯田裕美子

戸塚区公田町 在住一〇年 中学一年生 12歳

横浜港へは、いく度となく行つた。聞いたとおりに船はたくさんいたし、工場やその機械も大きかった。向こうにみえる、工場のとまりを走っていた船は、

豆つぶのように小さかった。波をおこしながら、その船は港にむかっていた。やがて、波が港のコンクリートの壁にぶつかると、その波はういていた。カンやほし草を動かすようになった。そして船は港についた。大きな船だった。

たくさんの人がおりてくる。日本人も少しいたけれど、ほとんどは外人さん。ファッシュングラスをかけた男の人、ちょっと日焼けした感じの外国の夫婦。金髪を長く伸ばして、手にはコーラのビンを持った少女。まだまだ、たくさんいる。外人さん、外人さん……。

でも、なんだか船を見ているうちに、こんなふうな、外国の人と日本人をはっきり区別していいのだろうか、という気持ちになった。よく考えてみれば、私だって、日本に生まれたくて日本に生まれたわけではない。日本人であることに、何か不満があるというわけではないけれど、他の国の人間になってみたい気がする。それは、どこの国の人だって同じだと思う。

それなら、どこの国の人だとか何々人だとかいう、宿命的にいってどうなるというものでもないことは、いわない方がいいと思う。もちろん、分ける必要がある場合は別だけれど。

よく「日本人は、海外旅行に行っても、その土地の人々とほんとうに交流することが少ない」という。日本人どうしでかたまってしまうのだそう。ふつうの人なら、海外旅行なんて、一生に何度行けるかわからない。それなのにその土地の人々と交流してこなければ、旅行に行く価値の半分をむだにするようなものだ。でも、私はこのことには、もう一つ別の意味があると思う。海外旅行だけが外人さんと、交流する機会ではないと思うからだ。日本にだって、外国人はいっぱいいる。港で見たように、たくさんきているのだ。それなのに日本人は、その人たちを素直にうけとめているだろうか。

先日、横須賀線の電車で、二人がけの席の片方に、どこかのおばあさんが一人ですわっていた。そこへ、

リュックサックを背負った、背の高い外人さんがきて腰かけた。そのとたん、おばあさんは、向かい側の席へ移った。おばあさんには、何か理由があったのかも知れない。けれど、もし外人さんがきたから席を変えたというのでは、あまりにも悲しい。仮に、あの外人さんが、私の隣へすわったのだったら、どうだったろう。まあ、席を移ることまではしなかっただろう。でも、よくとなりの人から話しかけられて、それに答えるときがあるが、それはできなかった、と思う。相手が流ちょうな日本語を話すなら、答えることぐらいできたかもしれない。でも、日本人どうしのように親しみをこめては話せず、相手がほかの国の人だと考えてしまうだろう。ここがいけないんだ！ 相手がよその国の人だなんて思うところが。

みんな同じ人間じゃないか。昨日も今日も地球で生きてきた、人間じゃないか。島国人の性格といっしょまえばそれきりだけど、そんなに日本しかわからない人は、もういないはず。いろんな方法で、世界のよう





すを知っているのだから、日本がけっして世界一でないこともわかっているし、いちばん悪い国というわけでもないということをもみんな知っているはず。それだったら、学問の上の分類——目や髪や肌の色とか、からだの大きさのちがいはなくて考えないで、一人の人間どうしとして、自分と相手と同じ位置において話してみよう……。同じ人間だから。同じ世界の人どうしだから。同じ星で昨日も今日も生きてきて、そして明日も生きていこうとする人間と人間だから。

私は、ほんとうに大切なのは、こういうように、地球で生きる人は地球人でみな同じなのだ、と考えることだと思う。そしてそこから、ほんとうの国と国とのつながりや平和が生まれるのだと思う。

デコボコ道と階段

三上 和江

戸塚区公田町 在住三一年 事務員 31歳

私が歩道のデコボコ、歩道と車道のさかいに段があ

〈横浜の人たち〉

建設を担う季節労働者

●出身県

青森	岩手	秋田	山形	5%	6%	5%	10%
18%	12%	21%	23%				

その他の府県
宮城 福島 新潟

●郷里での農業経営面積

2ha以上	1~2ha未満	17%	0.5ha未満	9%	11%
18%	30%		15%		

答えない
0.5~1ha未満 農業以外

(48年12月 市民局「出稼ぎ労働者実態調査」)

「出稼ぎ」する季節労働者の数は、全国で60万人、横浜市内にも4~5万人はいる、と推定される。横浜での建設関係の仕事の7割近くは、山形、秋田、青森などの米作地帯の中堅農家からくる人たちの手によっているとみてよい。

り、階段が多いことにとっても腹が立つようになったのは、昭和二十八年以来です。それまでは、このような状態が少しも苦にならなかったし、考えたこともなかったのです。この年の五月、高熱から両足が不自由になり、入院・退院とくり返しの生活が二年間続きました。そして、松葉杖にす



がって歩けるようになったとき、健康のありがたさを知りました。歩けたという喜びは今でも、昨日のことのようにはつきりと覚えていきます。だけど、一歩外へ出てとまどってしまいました。

どこへ行くにも不安でした。「ころんたら二度と自分の足では歩けませんよ」と、おっしゃった医師の言葉が頭にこびりついていました。杖にすがってヨタヨタ歩いている姿を見る他人の視線より、歩道のデコボコと階段の多いのがくやしかったことが心の底に残っています。

あれから、二十年以上もたったのに、相変わらずです。平らな歩道も、スロープのある歩道橋もありません。駅の階段ものぼりくだりが大変です。学校のそば、病院の前にはたしかに歩道橋があります。しかし、老人のため、障害者のため、乳母車のためのものではありません。健康な人たちのための階段だけです。最近では、公共施設もだいたい、老人、障害者用の通路、便所などができたと聞きますが、そこへ行くま

〈横浜の人たち〉

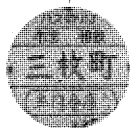
出稼ぎ収入の使途

- ▼生活費の赤字のあなうめ……………45%
- ▼農業機械を買い入れるお金……………20%
- ▼家をたてたり土地を買うお金……………10%
- ▼子どもの教育費や結婚費用……………11%
- ▼その他(必要なものを買う)……………14%

(資料は右に同じ。N=885)

世帯主で中高年齢の者が多く、その6割は建設業で働き、おもに土工や石工といった力仕事。労働時間は、1日8時間以上がほとんどで、3人に1人は10時間以上の重労働。収入は、平均1ヵ月税込み10万円～13万円。このうち8割近くを故郷に送り、残る2万円前後で暮らしている。

での道、乗り物は健康な人たちが対象ですから、誰か他人の手を借りなければ行かれません。これは横浜市だけでなく、日本中の問題であると思います。訓練所、施設はできています。しかし、現状では道路、交通機関は受け入れてくれないのです。私はどうにか自分の足でいかれますから、幸福だと思います。でも調



子の悪いとき（病院へ行くとき）は、階段が、バスのタラップが、電車とホームのすき間が、電車とホームの段がうらめしく思います。

私たちが生活している横浜市だけでも、誰もが自由に、自分の好きなところへ行かれたら、どんなにすばらしいことでしょう。私がいとも思っている夢です。そして、横浜市が導火線となって、都会へ、町へ、村へと日本中にひろがって欲しいのです。夢でなく、実現することが遠からぬことを心より願っています。

公害・短歌・医者

富岡 惟中

戸塚区桂町 在住一四年 医師 39歳

私の勤務先である汐田病院は、鶴見区にある。鶴見区は、東海道線より山よりの山手地区と海側の潮田地区および京浜工場地帯にわけることができる。この病院では、四年前から病院職員ならびに患者の同好者で

歌会をつくっており、私は参加して二年になる。私の第一回作品は群馬での子どもを歌ったものである。

せせらぎの透きとおる水を手に掬（すく）いここに
に住みたしと喘息息いう

昭和四十六年十月、潮田地区は公害認定地域となったが、公害病として認定されることを嫌う患者もいる。そのなかには、生命保険に入れなくなるからという理由をもつ人もいる。公の保証で健康なものだけを加入させ、保険会社はヌクヌクと育つという現状がうまれてきた。

四十六年十二月、民医連学術集談会にて公害についての発表がおこなわれた。もっぱら母性保護に力を入れていた当時の私には、公害についての関心が乏しかった。しかし、よくみると、なるほど鶴見の空は汚ない。

四十七年八月、大風が吹いた。翌日の空のきれいだったこと。はるかに富士も見えた。

台風の過ぎし空指し子に教う煙突のうえのあれが
空色

四十七年十月、新産業工業指定地帯の一つ高知県宿毛を通過。緑の大きな湾内には大きな河が流れ込んでおり、海は深く、海草がゆらいでいた。宿毛もあまりにも工業地帯にむいているがゆえに、おそらく来年は鶴見と同じ運命をたどることになるだろう。私はここで採れたというサンゴを哀愁をこめて買い求めた。

来る年はコンビナートに亡びむと宿毛の珊瑚ひとつあがなう

瀬戸内海の宇野に近い所の島々は、全くのはげ山である。その人の気配のまったくないところ、真黒い煙突が一本そびえており、真夜中に真白い煙をもやもやとはき出し、舟人をおびやかしている。そのうち日本中がこんなになるかもしれない。

四十八年四月、戸塚本郷台で懐かしげに話しかけて

くる主婦にあった。鶴見の患者で、この地の市営アパートに転居してもらってからは喘息がびたりと治ったという。同じような家庭が多くいるとも、嬉しげに話していた。この地区には大きな森や林もあった。すべて宅造されたが、なにかのはずみで少しの林と藪が残った。そこには野鳥が群れ飛び、ひなどりを育てて

〈横浜の人たち〉

出稼ぎ生活でつらいこと

- ▼宿舎が不備で生活しにくい……………11%
- ▼家庭生活ができないこと……………38%
- ▼子どもの教育が心配……………9%
- ▼都市の公害や交通事故が不安……………9%
- ▼その他(賃金契約やことば)……………7%
- ▼べつにない……………22%
- ▼答えない……………4%

(48年12月 市民局「出稼ぎ労働者実態調査」)

1年のうち、3カ月から6カ月以上も家族と離れて暮らしている。多くは5年以上のベテランで、故郷に残された妻や子の犠牲も多い。横浜での生活の実態は、あじけない仮設プレハブと建設現場の生活に象徴されるが、半数の人たちは「農業収入だけでは生活ができないから」と答えている。





いる。何かはすみがないと緑がなくなるのは困ったものである。

宅造に追われし鳥の集いきてさわがしく鳴く残れる森に

四十九年二月横浜市立大学医学部学生から「妊婦と公害」についての講演依頼を受けた。ほんらい、私がこの方面に関心がなかったというのは嘘である。私は歴史的な日本公害発生地の一つである、別子銅山関係の住友社員の子として生れ育った。足尾銅山に比し、住友はその煙害問題を解決すべく工場を転々と移設し、植林をし、ついには瀬戸内海の孤島にまで移したが、最終的には硫酸製造法の確立により解決した歴史をもっている。私は住友のこの企業努力をみてきており、社会の善意を信じるべく育てられた。しかし講演準備で、水俣病、イタイイタイ病、カネミ油症等の惨状や、環境汚染の現状と子孫への影響を知るにおよ

び、一医師としても、また一市民としても、何かせねばならないと考えるようになった。

住友に頼り育ちし我なれど医師なる故に公害を怒る

みなと談義

旭区鶴ヶ峰一丁目 在住二〇年 元外国航路船員 52歳

岡田 久磨

戦後、東京から横浜に居を移して、約二十年。当然、横浜を良く知っていてよいはずであるが、改めて考えてみると、まるで知っていないことに気がつく。なにしろ、その大部分を船の生活で過し、五、六年前に陸上勤務となっても、東京の会社と家の往復でほとんど市内を見ていないので、我ながらびっくりする。しかし、この三十年間、職業がら数えきれないほど海か



ら横浜を訪ねているので、盲が鼻にふれて象を想像する程度で、海から見た横浜を話したい。

戦前、中学の旅行で、当時花形の欧州航路浅間丸で、神戸から横浜まで乗って酔った覚えがある。当時、港の出入りは今に劣らず盛大であった。次の出会いは戦争初期で、今の商船大学の実習生として、当時海軍の病院船として活躍した氷川丸で、今は横浜港の名物の一つとなっている。当時ラバウルあたりから傷病兵を運んでは、大棧橋に着けて長く停泊し、毎晩伊勢佐木町や親不孝通りまでのんびり歩いて通ったが、もう既に街の灯は暗かった。

卒業後は、直ぐに応召して二十一年暮、復員するまで軍艦に乗っていて、ほとんど日本にいなかったの
で、横浜の空襲も焼野原も全く知らない。二十二年以後、再び商船に乗り、陸上勤務になるまで約二十年間、海から横浜を訪ねた次第である。

横浜港は、世界の他港と比べて傑出した点は、何も
ないといつていい。リオデジャネイロや神戸港のよう

〈横浜の人たち〉
61カ国の外国人

朝鮮・韓国 55.4%	中国 26.8%	米 国 8.5 %	その 他 9.3 %
----------------	-------------	--------------------	---------------------

(総務局「外国人登録者数」調べ、49年9月現在)

横浜に住んでいる外国人は、約2万1千人で、市民の0.9%。朝鮮・韓国・中国・米国のほかに、英国・ドイツ・オランダなど61カ国にも及ぶ。大都市での外国人の割合は大阪4.0%、神戸2.8%、京都2.6%の順に多く、横浜での外国人の割合がとくに高いということはない。なお、外国人の権利・義務関係は、選挙関係を除けば、市税をはじめほとんど一般市民と同じである。

な自然の美しさもないし、北米各港のごとき人工美も施設もない。またホンコンのように自然と人工のうま
くマッチした、美しさも持っていない。にもかかわら
ず外国船員にも親しまれ我々に、もし懐く感じられる
のは、それらのバランスが割合よく取れているため
はないか。赤と白の入口の灯台、緑の丘、古い県庁、



税関の屋根などみんな懐しい。

今後のみなと横浜についていうなら、道路の整備が急務であろう。だいたい横浜の埠頭は、すべて幹線道路の出入口でネックになっている。これは税関の關係もあるが、何処でも出口で大型トラックが列をなして続いている。山之内、高島、中央埠頭すべて然り。比較的新しい山下、本牧もみな同様で、市内の道路もそうではないかと思う。折角コンテナ船が急いで荷物を運んでも、岸壁から陸の輸送につながらず、山積みされたり、トラック上でならんで待っているのでは、コンテナが泣くというものであろう。市の計画は知らないが、高架にしる地下にしる、港全体を廻る広い道路の整備を急ぐことが必要ではなからうか。これは大変な仕事ではあるが。

象の鼻にふれているつもりが、いつのまにかしっぽの方ばかりつかんでいたようになってしまったが、最後に水の話の一つ。日本の水のおいしいことは、海外に出てみないとわからないが、特に、横浜の水は良質

で有名である。今後とも、質と量を確保したいものである。がしかし、海の水となると話は大部違ってくる。最近、我々船関係者の間で、よく冗談半分に聞かれる話だが、「神戸沖に半月も停泊していると、出帆してからスピードがぐっと落ちるが、横浜ではそれほどもでもない」ということである。これは阪神の海は大部きれいになってカキの育ちやすいほどになったので、半月も泊ると、船底に沢山カキがつくが、横浜沖はまだまだという事らしい。十年ほど前、必要あって横浜港内でダイバーを入れて、船の推進器を見てもらったことがあるが、川からの汚れ水で、水深が三段の層に濁っていてよく見えない、といわれたことがある。しかし、その頃に比べ最近、大部下まで見えるようにはなってきた。昨年末神戸の造船所で、ドックのゲイトから魚の泳いでいるのを見て、やはり神戸の方がきれいになったのかなと思った。

昔ケイプタウンの岸壁に付けていて、反対側の舷の窓から糸を垂らして、胴の直径五センチ以上の伊勢エ

どが面白いように釣れたことがあり、また港の真ん中で、オットセイかアザシカの夫婦らしい二匹が、楽しそうにくんずほぐれつ戯れているのもめずらしく見たが、土地の人は別にめずらしそうでもなかった。工業都市を周囲に持つ横浜港では、望むべくもないが、近い将来、北海道の各港でよく見られるように、子どもたちが岸壁に並んで糸をたれている、和やかな日曜日が訪れることを心から願ってやまない。

徹底的反クルマ人間

桐島 洋子

中区山下町 在任九年 評論家 36歳

私は最近、横浜と京都をこたまで毎週のように往復する二重生活を続けている。この二つの町には、なじめばなじむほど愛着を増すばかりで、私は身は一つ家庭は二つという重婚者の悩みを実感できるようになった。

港町のエキゾティズムと古都の伝統という全く対照的な魅力による変化の妙もさることながら、私をとりこにしているのは、むしろ両者共通の魅力のようである。

その第一は、横浜も京都も歩き心地のよい町であることだ。私は徹底的な反クルマ人間で、マイカーなどという愚かなものは、絶対に一生持たない、動かさないという誓いを立てている。どこへ行くにもできる限り歩き、歩くには遠すぎたら公共交通機関をこまめに利用する。

ところがアメリカのロサンゼルスにしばらく住んでみたら、車なしには牛乳一本買いに行けないのだから途方に暮れた。“人間プラス車”を基準にした町造りだから、歩ける範囲になんにもない。電車などはとうに絶滅して、わずかに生き残ったバスも、ほんのときたまトボトボと現われるだけで、ほとんど頼りにならないのである。

だから、横浜に帰って来たときは感激したものだ。





「ウワァ、バスでどこにでも行ける」「五分おきに電車が来るなんて」と一々大喜びして、まわりの人にバカではないかと思われたらしい。私の方は、こんなに頻繁で正確で、しかも安価な足の便を持ちながら、車を持つような連中こそバカではないかと思っている。

バスや電車の具合もよいけれど、足で歩く気分はさらによい。元町や中華街や伊勢佐木町など、歩くだけでも愉しい個性的な通りが多いし、港に沿った端正な並木道や、歩くたびに新しい景色を発見する複雑な山手の散歩道など、何度歩いても戦慄的である。

こんな町にどんどん車が増えるのは全く腹立たしい。しかも、それ以上におびただしい通過車が遠慮のかけらもなく、おそろしい勢いで横浜市内をブツ飛ばしていくのは、いよいよ頭に来る。もう少し頑固に立ちふさがって、車の横行を制御できないものだろうか。横浜も京都も「革新」都市だが、車に対しては保守反動であるところ革新なのだと思ふ。だから、市電を撤去しない京都の保守性を、私は高く評価

している。

公共的な存在が多い方がよいことは、交通機関に限らない。市民が自由に出入りできる空間が豊かだといふことも、横浜と京都の主要な共通性だろう。京都では至るところにある寺や神社の境内が、市民の庭の役割を果しているし、横浜には公園が多い。私が特に恵

〈横浜の人たち〉

放課後の児童の生活時間

- ▼遊び時間..... 1時間31分
- ▼テレビをみる時間..... 1時間54分
- ▼勉強時間..... 1時間19分

小学校	遊び時間	勉強時間
2年生	2時間6分	58分
6年生	57分	1時間45分

(49年5月 余暇開発センター「子どもの遊び」調査。東京都内の小学2・4・6年生920名対象)

東京っ子の遊びは、7割以上が「家の中」に限られ、学年が上になるにつれて、遊び時間は急激に減る。また、塾に通っている子はほぼ3人に2人。小学校にまで押し寄せた受験地獄のなかで、ゆがめられた生活から「勉強が嫌い」や「無気力っ子」も増えている。



まれた場所に住んでいるのかもしれないが、歩ける範囲だけにでも山下公園、港の見える丘公園、横浜公園と、立派な公園が三つもある。自分の家につっぽけな庭をかかえこむより、大きな公園の近くに住む方がずっと豊かなことだと思ふから、私も子供達もこの環境に大変満足している。

京都ほどではないけれど、歴史的な遺物がよく保存されているということも横浜の魅力の一つである。文明開化の足音が聞えてくるような古い西洋館がまだ方々にどっしりと腰を据えていて、前を通るたびに懐しい。いづれこれも取りこわれ高層ビルに変るのかもしれないと思うと気が気ではない。いささかの不能率ぐらい我慢して、なんとかこれ以上古いものをこわさずにおくことはできないものだろうか。横浜だけは、東京のようにせかせかと忙しいだけの都市になってほしくない。私は近頃、東京への嫌悪感がつのるばかりで、よほどやむをえない用事でもなければ、東京へ出掛けないし、たまに出掛けてもたちまちソソクサと帰

〈横浜の人たち〉

子どもの遊び場

必ず外に でかける 32%	あまり外では遊ばない 62%	4%
		外にはでない その他 2%

〈よく行く遊び場〉

- ▼川原やお宮、うら山など……7%
- ▼家の近くの原っぱや空地……22%
- ▼家の近くや庭……25%
- ▼道路や路地……9%
- ▼町の公園や児童公園……18%
- ▼学校やグラウンド……12%
- ▼その他……7%

(48年11月「自転車交通を考える会」子ども調査)
市内14区の小学5・6年生3,901名対象

浜っ子の小学5・6年生の約3割は、放課後戸外に遊びにでる。しかし、遊び場は空地や道路から、次第に公園や学校などに移っている。

って来てしまう。横浜に帰り着くとホッとすることはなく、東京と密着していながら、横浜にはたしかに東京にはないのどかさがある。これを大切にしたいのだ。方々に生き残る古き佳き時代の遺物こそが、こののかさの守護神なのかもしれない。この面でも大いに保守的であることを、革新市政に心から期待している。



浜っ子の手で人情都市を

桂 歌 丸

南区真金町 横浜生まれ 落語家 38歳

よくお年寄りに「若い内は苦勞しろ」といわれます。私も師匠からよくこの言葉を聞かされました。そのためかどうかわかりませんが、私も今までに芸の苦勞、生活の苦勞、いろいろな苦勞をしてきました。そしてやっと最近になってその言葉の意味が分ってきました。自分で苦勞した人間でなければ、他人の苦勞が分らないということが。私達芸人の中でも大変な苦勞をして世に出た人、苦勞をまるで知らずに世に出た人がいますが、くらべて見ると大変なちがひがありますね。それが芸の中にも出てくるようです。苦勞を知らずに世の中に出た人の芸は、見ても聞いても薄情な芸です。また、苦勞して世に出た人の芸は、人情味のある芸風のようなです。こんなことをいうと、私がいやに

人情味のある年寄りのように思えますが、こうなりた
いという夢ですから。

私達が、高座で落語をやっても、人情のあるお客様と、不人情なお客様との違いが、土地によって違います。では、横浜はどうかというと、お世辞でもなんでもありませんが、実に人情のあるお客様ばかりです。

師匠連に聞きましたが、昔、横浜に寄席があった時分から、浜のお客様は、芸人にとって、人情味のある扱いをうけたそうです。その代り浜で、いいかげんな芸をやると、お客様もその芸人に対して、薄情な扱いをしたそうです。誤魔化しのきかない所、それが我が横浜ではないでしょうか。江戸ッ子が他人の面倒をよく見る人情味のある代名詞のようにいわれてますが、浜ッ子はそれに優るとも劣らない人間だと思ってます。

私も横浜の真金町で生れ、いまだに真金町に住んでる浜ッ子ですが、短い人生経験のうち、本当の浜ッ子である人達と、ずい分お付き合ひをしてきました。他人の面倒を見はじめると、トコトンまで見る。相談には

乗ってくれる。それでいて頑固で強情なのが浜ッ子です。今いろいろな事情で、地方から横浜にきて、お住まいになってる方もたくさんいますが、そういう方達も、浜ッ子の気性になってきてくれてます。私達浜ッ子には、大変うれいことだと思ってます。

私事で大変申しわけないのですが、四年前から、自分の落語の勉強のため、また、横浜に対する私の感謝の気持ちもふくめて、老人ホームへ慰問をさせていただきます。月に一回六カ所の老人ホームへうかがうのですが、大変皆さんに喜んでもらえ、私もうれしく思ってます。ただ、老人ホームへうかがって、気がついたことは、マア、いろいろな事情もあると思います。せまい部屋に四人も五人も入り、トイレでも、冬など我々が入っても寒くておられないようなトイレを使用しています。寮母さんも人手不足のため、一人で大勢の老人の面倒を見ており、その他まだまだ不完全なことが目立ちます。予算のこともあるでしょう。他に早く片

付けなければならぬこともあるでしょう。また、そこには政治的なこともあるでしょう。しかし老い先短い老人のために、もつともつと我々若い者が力を合わせ老人の方々に温い手をさしのべていいのではないのでしょうか。諸々の選挙のある時だけ、立候補者が、ホームへくることもあるそうです。なんのためにくるのか分りますね。上べだけの訪問なら、しない方がいいですね。

私の知っておる人ですが、もつとも私はその方にまだ一度もお目に掛ったことがないのですが、私が老人ホームへ慰問に行つてるということを何かで知って、毎年五月になると御自分で実家に行つて、新茶をつんできて「老人ホームの皆さんへとどけてください」と、私に御自身手作りのお茶をとどけてくださる奥さんがいます。こんなに人情のこもった、温い贈り物があるのでしょうか。上べだけのウソの人情と、真実の人情と、皆さんならどちらを取りますか。いわずと知れたことですね。この奥さんにも、お年をめしたお姑さ



んがいるそうです。そのお年寄りの身を思つての温い心のあらわれたと、私も深く感謝しております。

老人ホームばかりではなく、一人暮しの老人のこゝと、幼児に関する問題、身体障害者の人達への問題と、いろいろな問題があると思います。真の人情をもつて、早々に解決したいものです。日本の人情都市、いや、世界の人情都市横浜といわれようではありませんか。浜ッ子の一人一人が手を取り合つて。

弱い立場の市民

保土ヶ谷区上星川町

在住一一年 牧師 42歳

原田 洋一

私はキリスト教の牧師なので、この現代という時代の中で、また横浜という都市の中で、"ほんとうに牧師らしい牧師"でありたいとねがっている。

私が責任をもつ上星川教会には、洗礼を受けた信徒だけではなく、一般の町の人たちもかなり足をはこん

で来る。私はそれがうれしい。上星川教会はそういう教会でありたいと、私を支えてくれる信徒の方たちと共に、そうねがっているからである。

教会というところは、自分というものに自信をもっている人は、あまり来ない。教会に訪ねてくる人の多くは、自分の生きること自信を失ったり、疑問をもちはじめた人たちである。要するに自分の心の病気に感ずいた人や、生きることが苦痛でたまらなくなった人が教会に訪ねてくる。

キリストはそういう人たちの友であった。だからキリスト教の牧師は、現代という時代の中で、キリストの意志を実現するように全力投球してゆかねばならないと思う。

A氏は三十三歳だが、この先も結婚の見通しがつかないでいた。五年前に母親が脳血栓で倒れたからである。六十歳の父親がつきっきりで看病をしている。先の見通しのつかない暗黒の家庭をみて、私はM県会議



員に力になってもらって、やっとA氏の母を県立七沢病院に入院させることにした。

だが月々六万ながしの費用がA氏にかかってくる。「俺は月に四万で生活しなくちゃならないんですよ。先のことを考えると心が暗くなる」と、彼は言った。愚痴をこぼしながらも彼は父母の面倒をみつづける。

そのA氏に結婚話がおこった。私は区の福祉事務所にゆき相談した。結婚することの証明ができれば生活保護法による医療給付が適用されるという。八カ月の療養で、入院前はねたきりであったA氏の母は、かなりの歩行訓練ができるまでに回復しているのだ。結婚のために経済的理由で無理に退院というのはあまりにも悲しい。

A氏は生活保護申請を決意した。役所はそのA氏につきつぎと保護をうけるための条件をいう。カラー・テレビ、ステレオ等売却のこと。

遊びひとつしないA氏は、長期月賦でやっと自分の

〈横浜の人たち〉

「肥満型」「やせ型」

やせ型	やややせ型	標準型	ややふとり型
9%	18%	49%	20%

肥満型 3%

(48年11月 都市研調査 N=910)

昭和48年11月、調査員のみた市民の体型は有権者の約半数が「標準型」。女性は男性よりも「ややふとり型」「肥満型」の傾向。男女とも、20～30代では「標準型」が多く、40代と50代で「ややふとり型」、60歳以上で「やせ型」が増える。職業別では、経営管理職に「ややふとり型」が多い。事務職は「標準型」が6割近くで、産業労働者と販売サービス従事者には「やややせ型」の割合が高い。

物にしたステレオが、唯一の心の支えであったが、それを手離さねばならない。また、そのあくる日A氏から電話があった。

「先生、また福祉事務所から生命保険の解約もしくははいけない、とやってきたんですよ」

私は彼の心を傷つけないように、母親の療養の継続



のために、忍ぶように説得した。二Kの市営住宅に、病人と老父と新婚夫婦が同居というのは無理である。

医療給付を受けるための諸条件をのんでも、快方に向っている母の療養を継続させたい。私はせて自力でトイレにゆかれるまで頑張ってほしいと、A氏にいい、A氏もそうしたいといった。

そう心が決ったところ、こんどは病院の方から、もうこの上治療を続けても効果がないから、近く退院するようにいわれた。それからしばらくして、結婚の方の話も、どうも雲ゆきが悪くなった、とA氏から連絡してきた。

A氏の母は、歩行器なら歩ける状態で二Kの部屋に戻ったが、その後歩行訓練などはおぼつかないことはいうまでもない。結局A氏の結婚話はご破算になった。「また元通りになりました」と、彼は淋しそうににかんで笑った。

人並みよりも多少レベルが低くてもいいから、ごく

〈横浜の人たち〉
男性のホームウェア

横浜	ズボン	97%	Gパン	6%	和服	9%	その他
東京	ズボン	87%	Gパン	13%	和服	8%	その他

(48年11月 都市研調査 N=910・同年10月)
社会調査研究所 東京調査 N=1,000

昭和48年11月初旬の横浜市民と同年10月初旬の東京都民のホームウェアをくらべると、横浜の20歳以上の男性では、ズボンが多く、Gパンと和服の割合が小さい。持家住まいの人にやや和服が目立ったが、一戸建借家でズボンが、賃貸団地や民間アパート・下宿・寮などでGパンが、それぞれ多かった。とくにGパンは、30歳以下のヤングに人気がある。

普通の人間が求める生活さえ見通しのつかない人々のことを、行政権力をもっている人たちは涙しつつ考え、てほしいと思う。

「いや、そんなことはいわれるまでもなく横浜市では……」

そういう答が返ってくるかもしれない。もし、ほん



とう、に、そ、う、で、あ、る、な、ら、牧、師、の、不、認、識、を、許、し、て、い、た、だ、き、た、い、と、思、う。

「王様は裸」というために

田代 昌史

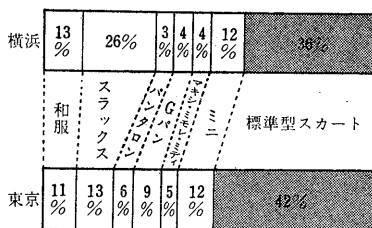
戸塚区上郷町 横浜生まれ TVK編成部勤務 38歳

「行政改革の必要が日本ほど叫ばれている国も珍しいのに、その実績が日本ほど上がらない国も珍しい。もっと不思議なのは、この論議と実績のギャップが日本ほど当然のこととして市民に了承されている国も珍しい」——離日に際して、こう語った外人記者がいる。大変奇妙な話だが、私が横浜市政とか横浜市民の市民性とか考え始めると、ふだんは忘れていたこの言葉がきまって眼前に揺曳（ようえい）し始める。考えがまとまらないうちに、彼の捨てざりふばかりが再浮上してくるのである。

彼の疑問を解くカギの一つとして、私にもはつきり

〈横浜の人たち〉

女性のホームウェア



女性のホームウェアの主流は、長さがひざまでの標準型スカートとスラックスだが、20代はミニが3割で、Gパン・パンタロン派も1割前後あり、服装もとりどりである。30～40代では標準型が約半数を占め、50代から和服に人気が集まる。東京の女性よりも、横浜ではスラックスが多く、標準型が少ない。

わかってきたことが一つある。横浜にはウソつき住民がふえたという発見がそれだ。自治体改革推進の論議と実績がかくも食い違ったままに放置されているのは、日本人の市民性、とりわけ横浜のような大都市市民の市民性に、いまや本音と建て前の乖離（かいり）が抜きがたい性分としてしみついてしまったせいでは



ないか。つまり口でいうことと、腹の中で考えていることと、この二つが分裂している社会では、行政が矛盾を矛盾のままに引き継いでいく姿はむしろ当然の姿としてとらえられてしまう。これは大きな落とし穴だぞと思うようになった。

すなわち行政側は市民に対して大変もつともらしい言い分（総論）と、しかし現実的には大変むずかしい条件がございましてという言い分（各論）の二つを準備すれば、あとは必勝体形となる。本音と建て前が一致している市民は別だが、分裂市民はこの硬軟両面作戦にあつて手も足も出ない。行政側の各論が市民の本音や願望に対していかにかけ離れたものであつても、とにかく建て前上は当局の総論に賛成したいきさつがあつて、以後行政の矛盾をわれ自らの矛盾として耐えしのばなければならぬ道理にはまりこんでいく。

横浜に、実態としての市民社会をつくつていこうというなら、何よりもまず肉声で語る市民をふやさなくは……と私が切実に思い始めたのは、以上のような

背景からである。「王様は裸だ」と思つたら「王様は裸だ」という市民をふやすことである。都市機能の多様化が進み、都市の機構がますます輻輳（ふくそう）する中で、私たちはいつのまにか「王様は裸だ」という発声法を忘れてしまった。それでなくても日本人は体裁をとりつくる。隣人の名前も知らずに生活しているような都市環境の中で、どうして最初から「王様は裸だ」などと切り出せよう。氏素姓もわからぬ初対面の人には、とりあえず建て前論で近づいていくことになる。

「ぼくらにとって市民性とは個別的、具体的なものの。言葉で説明することなんかできないよ」と、その外人記者はいったものだ。いまにしてナルホドと思う。それはたとえは、山手の丘から横浜の街を見おろした時の、私自身の真情をいいつくしている。いったい、この街のどこが魅力的なのか。こんな街並みはいまや日本中のどこへ行つたつて見ることができ、その気になればいつでもそつちへ移ることができる。い



や、それは違うぜ」と呼ぶ声が、すぐそのあとに続く。現に横浜の悪口をまくしたてる友人でもいようなものなら、はじめはさもしたり顔に相槌(あいづち)など打つことはできても、やがては怒り出す自分をまぢがいなく一人はかかえているからである。

地域社会に抱く愛情と、この社会がなかなかよくなるにない事実に対するいらだち・もどかしさの情とを同じ激しさで自分の中に高めていく作業が、いまや市民の一人ひとりに求められていると私は思う。愛なき者の建て前論を互いに排除する勇氣と、この街が日増しに人間色を失なっていく現実への鋭い怒りを自分の中にしっかりと確立すること。そしてこの二つの情を嘯(か)みしめながら、われ自らの中の本音と建て前の統一に乗り出していくことが、この横浜に、市民権を持つた市民を広げていく最初の作業となるにちがいない。

「横浜の人たち」索引

「浜っ子」の割合	9	区別の人口	59
「土地っ子」の割合	10	45年以降の人口増減数	61
大都市への入居時期	11	生産年齢と年少・老年人口	62
新旧住民の割合	15	増える老年人口	63
前住地と移転理由	17	若い平均年齢	67
横浜を選んだ理由	19	標準世帯は3人〜4人	69
転入の具体的理由	21	高い学歴	73
居住感	23	世帯の働き手	75
公害と危険度	25	通勤地と通勤時間	76
大都市の良い点	28	強い東京との結びつき	77
大都市の悪い点	29	働く人と地位の割合	80
親しみ・その1	32	働く人の職業別構成	81
親しみ・その2	33	産業別にみた働く人	83
定住性・その1	36	働く人の区別産業分布	85
定住性・その2	37	産業別人口の変化	87
地区との結びつき・その1	40	建設を担う季節労働者	92
地区との結びつき・その2	41	出稼ぎ収入の使途	93
住宅所有関係の割合	44	出稼ぎ生活でつらいこと	95
区別の住宅所有関係の割合	45	61カ国の外国人	97
部屋数と畳数	52	放課後の児童の生活時間	100
民営借家と住宅難世帯	53	子どもの遊び場	101
転入者に増える借家層	55	「肥満型」「やせ型」	105
激増する人口	56	男性のホームウエア	106
人口増加の足どり	57	女性のホームウエア	107